

アナログデータからデジタルデータへ

放射線科 技師長 高谷英明

時代の^{へんせん}変遷と共に医療技術は大きく進化し、私たちが扱う医用画像もアナログデータからデジタルデータに変わりました。

当院に電子カルテを導入して約1年が経過しました。放射線科で受けていただく各検査（X線撮影、CT、MRIなど）画像も全てデジタルデータとして運用しています。医用画像も、デジタルカメラで撮った画像をパソコン画面で見られるように、電子カルテと医用画像のひも付けを行い、各検査画像を専用のモニター（画面）で診断しています。

電子カルテへと切り替えたことで、完全にフィルムを使用することなく（フィルムレス）、容易で迅速に検査画像を診ることが可能になりました。

また、検査画像を患者さんへ渡す際、以前はレントゲンフィルムを渡していましたが、現在ではほとんどの人に検査画像データとして、CDやDVDに入れて渡しています。

デジタルデータ化することの利

点は、患者さんのカルテや画像の検索に時間がかからないということ、保管場所が省スペースで管理できること、膨大なカルテ情報や医用画像を紛失する可能性が低いこと、保存データの劣化が少ないことなどがあります。

一方、停電すると機能が使えない、電子化運用のために高度な専門的知識を有する、パソコンの更新が定期的に必要なというような欠点もあります。しかし、現状は大きなトラブルもなく非常に効果的・効率的に診療を行っています。

また、今までの検査画像はいわゆる白黒画像が一般的でしたが、最近ではカラー表示で検査画像を作成することも可能です。

アナログデータからデジタルデータへと変遷する中で、特に私たち診療放射線技師は医用画像を扱う部門の専門家として常に研さんを積んでいます。そして、当院に来院される患者さんのために安心して安全な検査を受けていただけるよう、業務を進めていきたいと考えています。

火の取り扱いには十分注意しましょう

春の火災予防運動

「もういいかい 火を消すまではまだだよ」を統一標語として3月1日(日)〜7日(土)に、全国で春の火災予防運動が実施されます。空気が乾燥し火災が発生しやすい季節です。火の取り扱いには十分注意し、後始末は確実に行いましょう。

期間中、磯城消防署では、磯城婦人防災クラブ員との合同巡回広報を実施します。また、自治会などへの訓練指導を行い、火災予防の啓発を図ります。町民の皆さんも、もう一度火の恐ろしさを思い起こし、地域や家庭から火事を出さないためにはどうすればよいと考えてみてください。

住宅防火 いのちをまもる

7つのポイント

3つの習慣

- 寝たばこは、絶対やめる。
- ストープは、燃えやすいものから離れた位置で使用する。
- ガスこんろなどのそばを離れるときは、必ず火を消す。

4つの対策

- 逃げ遅れを防ぐために、住宅用火災警報器を設置する。

磯城消防署予防係 ☎ 33・2461

- 寝具や衣類、カーテンからの火災を防ぐために、防炎品を使用する。
- 火災を小さいうちに消すために、住宅用消火器などを設置する。
- お年寄りや身体の不自由な人を守るために、隣近所の協力体制をつくる。付けてて良かった!

住宅用火災警報器!!

住宅用火災警報器で助かった事例はたくさんあります。一日も早く、住宅用火災警報器を設置しましょう。

事例紹介

- 家人がハロゲンヒーターを消さずに外出したため、周囲の可燃物に火がつき住宅用火災警報器が作動。近隣住民が警報音に気付き初期消火にあたり、消しとめることができた。

- 居住者が2階で就寝中、部屋に設置されている住宅用火災警報器の鳴動に気付き確認したところ、椅子の上の衣類などから炎が出ているのを発見。早期に避難できたため、母親と幼児2人にけがはなかった。

※悪質な訪問販売にはご注意ください。※消防署が販売・取り付けをすることはありません。